

市の考えを問う 一般質問

9月21日・22日・26日の3日間行われた一般質問の主な質問（Q）と答弁（A）の概要を掲載します。



Q 少子化対策について

A 地域社会で子育て支援を進める

大曾根英明 議員

質問一 少子化の傾向と特徴は。

二 今後予想される状況と分析は。

三 鶴ヶ島市の少子化対策への取り組みについて。

四 鶴ヶ島市の支援と成果は。

答弁一（市長） 本市の人口は平成47年までで約5・1割減少し、特に今後出生に関わる14歳までの年少人口は約35割もの減少が推計されている。

二 本市は、団塊の世代と団塊ジュニアの世代が多い。今まで出産の中心だった団塊ジュニアの世代が40代を迎え、出生数のピークは過ぎていく。今後高齢化と共に急速に少子化が進むと予想している。

三 社会情勢が急激に変化している中、子育てと仕事を分けて考えることはできない。ワークライフバランスの取り組みや男女共同参画等の施策と連携を図っていく。

四 昨年8月、県から子育て支援

に対する環境整備が整いつつあることを示す「子育て応援タウン」の認定を受けた。今年度6月からファミリーサポートセンターを開設し、10月から子ども医療費の窓口払いを無料にする。今後きめ細やかな支援を進め、地域社会で子育てを支えていく。

◎その他の質問 商店街の環境整備について

質問一 市で実施していた人材バンクの状況は。

二 地域ゆかりの「人」という資源による子どもたちへの学び、体験について。

答弁一（市長） まちづくり人材バンクは、審議会委員への登用の参考や、行政施策への意見を求めるとともに地域活動等の指導者を検索する際のデータとして活用し

Q

地域ゆかりの人による夢の育成

A

様々な取り組みで充実に努める

内野 嘉広 議員

てきた。平成18年度以降は更新していない。豊富な知識や経験を持つ人材が地域にはたくさんいて、こうした人の力をまちづくりに生かす新たな仕組みを検討していく。

二 子どもの発達の過程において、人と実際に触れ合い、関わり合う直接体験は、豊かな人間性を育む上で重要である。

身近なお手本として具体的な目標や夢、希望を与えることができ、地域ゆかりの「人」を資源ととらえ、その方たちとの様々な学習や体験の機会を創出していくことは、次世代を担う子どもたちの健全な育成を図る上で有意義な取り組みであり、今後とも充実に努める。

◎その他の質問

一 地域の担い手の発掘・育成

二 一本松駅のバリアフリー化



東洋大学野球部員による野球教室